

調査結果の概要と分析、改善策について

丹波市立和田中学校

【分析にあたって】

4月19日（火）に実施された本年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校は、国語・数学・理科ともに全国平均を上回る良好な結果でした。平成29年度の研究指定時から継続して取り組む「生徒の主体的な学びを大切にしたい授業づくり」により、生徒に粘り強く学習課題に対峙する姿勢が身につけてきている成果と考えられます。

しかし、本調査で測ることができるのは学力の一部でしかありません。また、小規模校である本校では、生徒1人の正誤によって結果が大きく変わってきます。したがって、正答率等の数値のみにとらわれるのではなく、生徒の学力の傾向を適切にとらえ、苦手な部分を補い、得意な部分をさらに伸ばす教育活動を引き続きすすめていくため、この調査結果を活用したいと考えます。

【調査概要】

- 実施日 令和4年4月19日（火）
- 実施教科 国語、数学、理科
- 対象学年 3年生

【質問紙調査から】



<挑戦心・自己有用感>

質問事項	肯定的回答	全国との差
将来の夢や目標を持っていますか	82.2%	+14.9p
難しいことでも失敗を恐れず挑戦していますか	57.1%	-10.0p
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4%	+1.1p

・挑戦心は全国との差はあるものの改善傾向です。将来の夢や目標を実現するためにも、困難なことに「積極的に挑戦する」姿勢を育む取組を充実する必要があります。

<学習習慣>

質問事項	肯定的回答	全国との差
計画を立てて勉強していますか	57.2%	+1.3p
質問事項	1～2時間 2時間以上	全国との差
平日にどのくらい勉強していますか	57.3% 14.3%	-12.3p -20.9p
休日にどのくらい勉強していますか	71.4% 35.7%	+0.6p -9.2p

・平日、休日ともに学習時間は決して多くなく、2時間以上学習する生徒は全国平均を大きく下回っています。しかしながら、良好な調査結果を合わせて考えると、学習内容の定着のためには、学習時間の長さより学習に向かう姿勢や学習方法の工夫が、より重要であると考えます。

<主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善>

質問事項	肯定的回答	全国との差
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	57.2%	-6.1p
自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	53.6%	-13.6p

・基本的な知識・技能は定着がみられるが、それを生かした「深い学び」には至っていない状況が伺えます。今後は、身につけた学習内容を生かし、それを発展させる授業展開（改善）が求められます。

<学習課題に取り組む姿勢>

質問事項	肯定的回答	全国との差
今回の調査問題には解答を文章で書く問題（国・理）、言葉や式で説明する問題（数）がありました。最後まで解答しようとしたか。	国 78.6% 数 60.7% 理 82.1%	+1.3p +7.3p +8.1p

・課題に対してはねばり強く取り組むことができています。この姿勢は本校生徒の強みであり、すべての学びの基盤であると考えます。

【各教科の結果から】

※本文中の「p」は本校正答率と全国平均の差の単位
本校 80.5% 全国 72.5% のとき 差は「+8.0p」と表記

<国語> ※問題文は文部科学省 HP を参照

（問題3四） 全国との差：+11.9p
問題：「おれ」は何を「なるほど」と思ったのか、話の展開を取り上げて書く
正答例：「おれ」が幼い頃に遊んでいた海は、実は公園の水辺だったとことを「なるほど」と思った。

場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、話の展開を取り上げて適切に書くことができています。また、記述問題は正答率が全国平均を大きく上回っています。これらは、書く活動を充実させていることの成果と考えます。

（問題4一） 全国との差：-10.8p
問題：行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する
正答：㊸「筆順の変化に気を付けて書くことができている」

行書の特徴を理解しているかどうかをみる問題で、すべての設問の中で最も正答率が低く、全国平均を大きく下回っています。書写の学習は主に1年次に行いますが、それ以降学習する機会が少ないことが要因と考えられます。書写の学習で身につけた資質・能力を他教科や実生活に生かす態度を育成するためにも、学び直しの機会を設ける必要があります。

<数学> ※問題文等は文部科学省 HP を参照

（問題2） 全国との差：+11.2p
問題：連立方程式 $\begin{cases} 2x+y=1 \\ y=x+4 \end{cases}$ を解く
正答： $x=-1, y=3$

例年、文字式や方程式等の計算については正答率が高く、基本的な計算技能の定着がみられます。また、座標や三角形の合同条件等の基礎用語や基本技能を確認する問題についても高正答率です。積み重ねの教科である数学においては、適宜学び直すことや自主学習に取り組むことが大切であり、前述の結果は日頃の学習の成果と考えます。

（問題9(2)） 全国との差：-1.8p
問題：∠ABE と∠CBF の和が 30° になる理由を示し、∠EBF の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する
正答：（省略）詳細は HP 参照

全国平均との差は小さいが、すべての設問の中で最も正答率が低く、無解答率（21.4%）は最も高くなっています。数学的な表現を用いてことがらが成り立つ理由を説明することは例年課題となっており、その解決を図るために数学的な表現を用いて思考させたり説明させたりする機会を充実させる授業改善をすすめています。

<理科> ※問題文等は文部科学省 HP を参照

（問題7(2)） 全国との差：+28.7p
問題：吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する
正答：イ 詳細は HP 参照

平易な問題ではありませんが、正答率は高く、全国平均を大きく上回っています。実験・観察を実施する際、結果の予測や考察を重視している点、さらに各自の考えを説明できる力を身につけさせるよう意識して授業を行っている成果と考えます。

（問題5(1)） 全国との差：-4.6p
問題：おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する
正答：アとキ（適切な2つの解答）を選択
詳細は HP 参照

知識、技能を問う問題で、すべての設問の中で最も正答率は低くなっています。また、他の知識・技能を問う問題についても、正答率は全国平均を下回り、定期考査に向けての「一時的なつめ込みの知識」となっている傾向にあるのかもしれませんが。今後は適宜学び直しの機会を設ける等、より確かな知識・技能の習得に向けた授業改善をすすめます。

【今後の取組（指導改善のポイント等）】

<各教科及び教育活動全般を通して>

- 国語・数学・理科の課題や成果をすべての教職員で共有し、全教科の授業改善を図ります。また、教科の枠を超えたすべての教員が参加する授業研修会を行い、各教員が取り組む課題を明確にします。
- 定期考査に向けた学習の中で、生徒自身が学習課題を設定し、「いつ」「何を」「どのくらい」学習するのかを決め、主体的・計画的に学習に取り組む「学びのマネジメント力」の育成をすすめます。
- 「道徳科」における研究を進展させ、すべての教科で深い学びにつながる教材の設定や発問の工夫等を行い、実生活に生かせる知識・技能の定着、思考・判断・表現力の育成を図ります。
- 学校行事や日常の生徒会活動の中で、生徒が主体的に活動する機会を充実します。自己有用感を育むとともに、安心安全な学校づくりをすすめます。